

本格伴奏と簡易伴奏に対する 5 歳児の歌唱様相について

羽根田 真 弓

Mayumi HANEDA : A Singing Feature for a Simplified Harmonic Accompaniment and an Authentic Accompaniment on Five Years Old Children

ピアノ伴奏によって子どもの歌唱様相がどのように変わるのかを明らかにするため、5 歳児を対象に簡易伴奏と本格伴奏でグループ唱をさせ、ピアノ伴奏の違いによる子どもの歌唱行動の観察調査をおこなった。その結果、簡易伴奏時に「どなり声」になりやすく、本格伴奏では出だしを裏声で歌い、換声点周辺でも裏声で歌うことが観察された。このことから、簡易伴奏には「どなり声」を出しやすい要因があること、一方、本格伴奏には裏声を出す何らかの誘因があるのではないかと推測された。

キーワード： 歌唱行動 本格伴奏 簡易伴奏 どなり声

はじめに

保育現場における子どもたちの歌唱活動は、保育者のピアノ伴奏にあわせた一斉歌唱が独特のスタイルとなっている。この集団歌唱の場面において、子どもたちは慢性的に「どなり声」で歌っている。この現象については、研究者によってそれぞれ指摘されているものの、なぜこうした現象がおこるのかという原因および背景要因に関しては、具体的には解明されていない。

そこで、羽根田 (2009) では、ある種の簡易伴奏が子どもの集団歌唱にみられる「どなり声」を誘発していると仮定し、5 歳児の集団歌唱における印象評価実験をおこなった。残念ながら、実験結果からは、簡易伴奏と「どなり声」との因果関係を認めることはできなかったが、子どもの歌唱行動とピアノ伴奏には何らかの関連性があると考えられた。なぜならば、追加実験としておこなった 2 人から 6 人までの少人数のグループ歌唱では、子どもたちはピアノ伴奏を聞きながら、声を変えていることが観察されたからである。

この観察結果をふまえ、簡易伴奏と本格伴奏では子どもたちにどのような違いが見られるのか、子どもたちは二つの伴奏の違いをどのように感じとっているのか、本研究では伴奏の違いに焦点をあてて観察調査をおこない、子どもの歌唱行動の実態について明らかにすることを目的とした。

ピアノ伴奏と子どもの歌唱行動については、これまで次のような先行研究があげられる。

まず、小学 1 年生を対象にイヤホンを装着して歌わせた三村ら(2009)によると、自分の声をモニターした子どもたちは「どなり声」で歌うことはなく、音高も正確になることが明らかにされている。また、歌唱時に旋律を伴うピアノ伴奏によって子どもたちが正確に歌唱することも明らかにされている。さらには、伴奏条件別（ピアノ伴奏・かけ声とピアノ伴奏・無伴奏）では、ピアノ伴奏条件下において、実験対象児である子どもたちが最も「どなり声」で歌っていないと報告されている。

一方、Guilbault(2004)によると、簡易伴奏が無伴奏による指導法のほうが幼児は旋律を正確に再生することが明らかにされており、さらに、幼稚園児を対象に実験をおこなった Atterbury & Silcox

(1993)によると、ピアノ伴奏の有無による音楽能力(singing ability)の差はないと指摘されている。

このように、ピアノ伴奏と子どもの歌唱行動は密接に関連しているということは明らかである。同時に、研究者によって見解が一致していないということも事実である。

以上の問題意識のもと、本研究では、5歳児を被験者として少人数のグループを設け、ピアノ伴奏の違いによって子どもたちがどのように歌い方を変えるのか調査をおこなった。

1 方法

予備調査は、鳥取県倉吉市内の幼稚園の5歳児27名(男児11名、女児16名)を対象におこなった。調査時期は、平成21年6月1日から6月5日までである。3人から5人の少人数グループを編成し、担任が同席しない形態で登園後の自由時間に遊戯室でおこなった。

続いて、本調査は、鳥取県琴浦町内の保育園の5歳児21名(男児8名、女児13名)を対象におこなった。対象児が4歳児であった時、調査者である筆者が保育園に毎月訪問していたことから、対象児とはラポールをとっていた。1グループを5名もしくは6名の男女混合とし、4つのグループでそれぞれグループ歌唱させた。調査日時は、6月23日の午前であり、場所は遊戯室である。なお、グループ編成はあらかじめ担任保育士にお願いをし、保育士同席のもとで調査をおこなった。表1はグループ編成を示している。

表1 グループ編成

グループ	男児	女児	合計
A	2名	4名	6名
B	2名	3名	5名
C	2名	3名	5名
D	2名	3名	5名

刺激曲は子どもたちにとって既習曲であり、調査時期の生活に密着した曲である「こいのぼり」(C4～C5)と「かたつむり」(C4～C5)の2曲である。これら2曲は羽根田(2009)と同様である。

伴奏条件は右手で旋律を演奏し、左手で和音奏をする簡易伴奏、本格伴奏および無伴奏の3条件である。楽譜1と楽譜2は、本格伴奏の前奏部分と最初の4小節である。

楽譜1 「こいのぼり」注1)



楽譜2 「かたつむり」注2)



聴取内容は次の5項目である。

最初に簡易伴奏と本格伴奏を調査者である筆者が演奏して子どもたちに聞かせ、1) どちらの伴奏が好きかについて聞き取りをおこなった。さらに、簡易伴奏と本格伴奏にあわせてグループ唱をさせ、2) どちらの伴奏のほうが好きかよく歌えたかについて聞き取りをした。続いて、無伴奏で歌唱をさせ、3) ピアノ伴奏があったほうがいいのかどうかについて聞き取りをおこなった。さらに、4) 歌唱時に友だちの声が聞こえたか、5) 歌唱時に自分の声が聞こえ

たかについてそれぞれ聞き取りをおこなった。

2 結果

聴取結果を項目ごとに示す。

1) どちらのピアノ伴奏が好きか

簡易伴奏と本格伴奏をそれぞれ聞かせ、どちらの伴奏が好きかについて聞き取りをおこなった回答結果を表2と表3で示す。

表2 好きな伴奏形態 「こいのぼり」

	簡易伴奏	本格伴奏
男児	4名	4名
女児	10名	3名
合計	14名	7名

表3 好きな伴奏形態 「かたつむり」

	簡易伴奏	本格伴奏
男児	2名	6名
女児	—	13名
合計	2名	19名

「こいのぼり」では本格伴奏より左手で和音伴奏した簡易伴奏を支持する傾向が見られ、特に女児は簡易伴奏を支持している。一方、「かたつむり」では男児女児ともに圧倒的に本格伴奏を支持しており、女児は全員が本格伴奏を支持している。

簡易伴奏を支持した「こいのぼり」に対する子どもたちの回答事例は次のとおりである。

女児1：きれいな音だった

女児2：最初がきれいだった

男児1：おもしろい

一方、「こいのぼり」の本格伴奏に対する回答事例は次のとおりである。

男児1：H先生のなあ、ピアノ弾くのが楽しかった

女児1：H先生がなあ、ピアノ弾くとなあ、歌いや

すいから

女児2：H先生のなあ、やっぱりなあ、きれいな歌が歌えるけ

男児2：H先生のピアノの音がきれいだったけ

男児3：H先生のピアノ弾くのが上手だから

男児4：だってなあ、きれいだった

男児5：はじめてだけ

このように、子どもたちは簡易伴奏と本格伴奏による違いを感じとっており、さらには簡易伴奏のほうが支持されたものの簡易伴奏よりも本格伴奏に対して強く反応を示していることがわかる。

続いて、本格伴奏が圧倒的に支持された「かたつむり」では、次のような回答事例が見られた。

女児1：最後のとき（前奏部分の4小節）がきらきら聞こえてなあ、ピアノがかわいく聞こえたから好き

女児2：最後（前奏部分の4小節）がきれいだった

女児3：きれいな音楽だった

男児1：きれいな音だったから

女児4：大きいのと小さいのが混ざっててきれいだった

男児2：1（簡易伴奏）は音がでかかった

男児女児：やさしかった

男児女児：かわいかった

これらの回答事例から子どもたちが前奏部分にかなり反応していることが確認できる。具体的には前奏が始まった途端に子ども同志で顔を見合わせたり、「ちっちゃっ」とつぶやいたりする様子が観察された。また、「音が高い」と反応する様子も観察された。さらに、これらの回答事例から子どもたちが音楽として感じとっていることがわかる。また、簡易伴奏の時はピアノの音が大きいと述べていることにも注目できる。

2) どちらのピアノ伴奏のほうが気持ちよく歌えたか

簡易伴奏と本格伴奏にそれぞれ合わせて歌唱させ、どちらの伴奏のほうが気持ちよく歌えたかについて

聞き取りをおこなった回答結果を表4と表5で示す。

「こいのぼり」では、1)の結果同様、子どもたちは簡易伴奏のほうが気持ちよく歌えたと支持している。また、「かたつむり」では1)の結果同様、本格伴奏のほうが気持ちよく歌えたと支持している。つまり、ピアノ伴奏だけを聞き支持した伴奏形態と、気持ちよく歌えたとする伴奏形態は一致している。

表4 気持ちよく歌えた伴奏形態 「こいのぼり」

	簡易伴奏	本格伴奏
男児	5名	3名
女児	11名	2名
合計	16名	5名

表5 気持ちよく歌えた伴奏形態 「かたつむり」

	簡易伴奏	本格伴奏
男児	2名	6名
女児	4名	8名
合計	6名	14名

注3)

簡易伴奏のほうが気持ちよく歌えたとする「こいのぼり」に対する子どもたちの回答事例は次のとおりである。

女児1：きれいだし、大きく歌えたけ

男児1：楽しかった

女児2：だってよく聞こえるけ

男児2：からだがぼかばかしてきたけ

女児3：うれしかった

一方、「こいのぼり」の本格伴奏を支持した子どもの回答事例は次のとおりである。

女児1：H先生のなあ、やっぱりなあ、きれいな歌が歌えるけ

男児1：H先生のなあ、ピアノの音がきれいだった

女児2：うれしかった

女児3：(右手で半円を描きながら)(ピアノが)なめらかだった

女児4：最初のほう(簡易伴奏)はなあ、少し声が大きかった^{注4)}

男児2：おもしろかった

これら二つの伴奏の回答事例から、やはりピアノ伴奏の相違に反応していることが確認できる。そして、本格伴奏ではピアノ伴奏がなめらかだったと答えながら、伴奏の差異を表現しようとしている女児も観察された。また、簡易伴奏では「どなり声」で歌ったことに反応を示していることにも注目できる。反面、簡易伴奏によって大きな声で歌うことを気持ちよく歌えたと捉えているケースも確認できる。

続いて、本格伴奏が気持ちよく歌えたと支持された「かたつむり」に対する回答事例は次のとおりである。

女児1：最初のときとか最後のときとかすごいきれいできれいな音楽だった

男児1：きれいな音だった

女児2：楽しかった

女児3：かわいい歌だった

女児4：音楽がおもしろくて楽しかった

一方、「かたつむり」の簡易伴奏では次のような回答事例があげられる。

女児1：楽しかった

女児2：きれいだった

これら二つの伴奏の回答事例から、本格伴奏における前奏を感じ取り、さらに本格伴奏と簡易伴奏の差異を聞き分けていることが明らかである。しかも、女児のほうが伴奏から受ける気持ちを言葉で伝えながら顕著な反応を示している。

3) ピアノ伴奏があったほうがいいのか

簡易伴奏、本格伴奏に合わせて歌唱させた後、無伴奏で歌わせ、ピアノ伴奏の有無について聞き取りをおこなった。結果は図1のとおりである。「こいのぼり」「かたつむり」とともに、子どもたちは圧倒的に無伴奏よりもピアノ伴奏のあるほうを好んで歌っていることが明らかである。特に「かたつむり」では顕著にその違いが示されている。

ピアノ伴奏があったほうが好きという回答事例は次のとおりである。

女兒 1 : H先生のなあ、最初の歌と最後がなあ、かわいく歌えるけ

男児 1 : H先生の弾いたピアノの音がきれいだった

女兒 2 : 声がきれいだった

女兒 3 : 声が大きい

男児 2 : 大きい声がでる

女兒 4 : きれい

男児 3 : 気持ちよかった

男児女兒 : 楽しい

男児女兒 : ピアノがきれいだった

このように、明らかに 5 歳児がピアノ伴奏を聞いていることが回答事例からもわかる。そして、子どもたちはピアノ伴奏をともなうて歌うことを好んでおり、さらには、ピアノ伴奏によって歌い方を変えていることが確認できる。

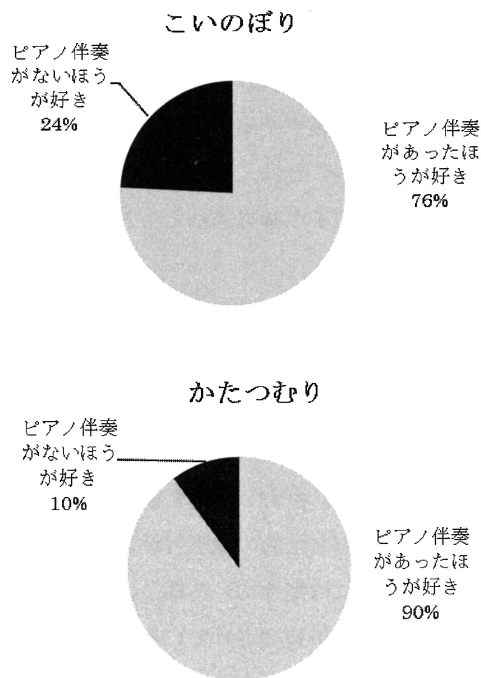


図 1 ピアノ伴奏の有無

4) 歌唱時に友だちの声が聞こえたか

ほとんどの子どもたちが歌唱時に友だちの声を聞いていると回答していた。回答事例は、「○○ちゃんの声が大きかった」「みんなの声が聞こえて楽しかった」などであった。

5) 歌唱時に自分の声が聞こえたか

ほとんどの子どもが自分の声を聞いて歌ったと回答していた。回答事例は「うれしかった」「楽しかった」などであった。

表 6 と表 7 は、ピアノ伴奏条件別の歌唱行動を示している。「こいのぼり」では、1つのグループが簡易伴奏時に「どなり声」で歌い、本格伴奏時には「どなり声」ではなくなる様子が観察された。そればかりかこのグループは本格伴奏条件下で出だしを裏声で歌っていた。さらにもう 1つのグループによっても本格伴奏条件下で出だしを裏声で歌っている様子が観察された。加えて、「おもしろそうに」の部分の C 5 周辺で裏声による歌唱が観察された。D グループでは 1 人の女兒が「どなり声」で歌っていたために、どの伴奏条件下でも一貫して「どなり声」で歌っていた。そして D グループ以外の 3 グループでは、無伴奏になると途端に弱々しい声に変化し、ピアノ伴奏があると大きい声が出ると答えていた 3) の回答事例と一致する結果となっている。

さらに、「かたつむり」においても 1つのグループで簡易伴奏条件下では「どなり声」で歌っていたが、本格伴奏条件下で出だしを裏声で歌い、歌全体を丁寧に歌っている様子が観察された。さらにもう一つのグループでも本格伴奏条件下で出だしを裏声で歌っている様子が観察された。また、予備調査においても「かたつむり」では本格伴奏条件下に出だしを裏声で歌っているケースが観察された。D グループでは「こいのぼり」と同様、1 人の女兒が「どなり声」で歌っており、いずれの伴奏条件下でもピアノ伴奏を全く聞いていない様子が観察された。

表6 ピアノ伴奏条件別の歌唱行動 「こいのぼり」

グループ	簡易伴奏	本格伴奏	無伴奏
A		出だしを裏声で歌う C 5 周辺を裏声で歌う	小さな声で歌う
B	どなり声で歌う(女兒)	出だしを裏声で歌う	小さな声で歌う
C	小さな声で歌う 出だしを遅れて歌う	出だしを遅れて歌う	小さな声で歌う
D	どなり声で歌う(女兒)	どなり声で歌う(女兒)	どなり声で歌う(女兒)

表7 ピアノ伴奏条件別の歌唱行動 「かたつむり」

グループ	簡易伴奏	本格伴奏	無伴奏
A		出だしを裏声で歌う	
B		どなり声で歌う(女兒)	小さな声で歌う 途中で何度も歌が止まる
C	どなり声で歌う(男児)	出だしを裏声で歌う 歌全体を丁寧に歌う	小さな声で歌う
D	どなり声で歌う(女兒)	どなり声で歌う(女兒)	

3 考察

本調査から、5 歳児は明らかにピアノ伴奏を聞いており、しかも、簡易伴奏と本格伴奏の違いを感じとっていることが明らかとなった。そして、伴奏の違いを歌声で表現しようとしていることが観察された。特に、女兒は伴奏から受ける気持ちをさまざまな言葉や態度で表現しながら、その差異を自らの歌声で表現しようとする傾向が見られる。具体的には、「かたつむり」の本格伴奏の前奏部分に顕著に反応を示し、拍子を取りながらからだを左右に揺り動かし、表情豊かに歌っている様子が観察された。つまり、ピアノ伴奏と子どもたちの歌唱行動は密接に関連しており、子どもたちは伴奏の違いによって歌い方を変える傾向にある。

さらに、表6と表7で示されるように、簡易伴奏条件下で「どなり声」で歌っていた子どもたちが、本格伴奏時に出だしを裏声で歌い、そのうえ歌い方を変えて歌ったことに注目したい。つまり、簡易伴

奏には「どなり声」を出しやすい何らかの要因があり、本格伴奏には裏声を出す何らかの誘因があると考えられる。このことは、本格伴奏時に、喚声点周辺で裏声で歌う様子が確認されたことから示唆できる。

簡易伴奏時に「どなり声」になりやすい傾向が見られるのは、子どもたちが日常、和音伴奏を中心とした簡易伴奏で歌うことに慣れてしまい、そのために惰性的に歌っていることが考えられる。このことは、紙屋ら(2008)がおこなった簡易伴奏とアレンジ伴奏による子どもたちの歌唱行動の調査においても、簡易伴奏時には飽きている様子の子どもや、ふざけている子どもが観察されていることから指摘できる。

一方、本格伴奏に対しては、伴奏の違いに気付くと同時に、子どもたちが音楽を感じ取りながら声を変えて歌ったことが考えられる。

ところで、簡易伴奏と「どなり声」との関連として、簡易伴奏の形態が一つの要因として考えられる。

というのは、保育現場で一般的に扱われる左手で和音を弾きながらビートをとる伴奏形態は、何かしら子どもたちをあおるものがあるものと推測する。同時に普遍的な伴奏形態は子どもたちの表現への気持ちを損ねていることも考えられる。さらに、村尾（2009）は、主和音のみの伴奏が子どもを「どなり声」にさせる一つの原因ではないかと指摘しており、実際、今回の調査でも「かたつむり」の簡易伴奏はすべて主和音による和音伴奏であり、「こいのぼり」は1小節のみをⅡ度の和音を用いた。

いずれにせよ、左手に和音を扱った簡易伴奏は子どもたちが「どなり声」を出しやすい状況をつくっている可能性が高い。

このことは、保育者養成課程でピアノ伴奏が簡易化される傾向に対して問題提起するものであり、同時に、ピアノ演奏経験が乏しい保育学生が自己流の伴奏や簡略化した簡易伴奏をおこなうことによって子どもたちの「どなり声」が引き起こされていることも推測できる。

次に、今回の調査において、無伴奏条件下で子どもたちの歌声は途端に小さくなり、音程も正確ではなくなる様子が観察された。三村ら（2009）の調査では、子どもたちはピアノ伴奏があったほうが無伴奏よりも子どもたちは音高を正確に再生すると述べられており、今回の調査結果と一致している。しかしながら、既述した Guilbault の実験報告とは異なっており、この相違はピアノ伴奏を伴うわが国の歌唱指導のスタイルに因る可能性も考えられる。言い換えれば、常にピアノを弾きながら歌唱指導をおこなってきた結果と関連していることが推測できる。

以上、簡易伴奏と本格伴奏では子どもたちの歌唱行動に違いがあることが明らかとなった。しかも、今回の観察調査の結果において、簡易伴奏が子どもたちの「どなり声」を引き起こしている可能性があることと示唆できる。しかしながら、簡易伴奏のどのような要因が「どなり声」と関わっているのかは今後ともさらに解明されなければならない。

おわりに

子どもの歌唱行動とピアノ伴奏との関連性があると認められたことから、子どもの歌唱指導におけるピアノ伴奏について検討しなければならない。また、今回、グループ唱の形態で調査をおこなったが、集団歌唱における形態での関連性も明らかにしなければならない。

子どもの歌唱指導について、特にピアノ伴奏や歌唱形態の課題についてあらためて問いなおすことが求められる。

付記

本稿は、筆者が日本音楽教育学会第40回大会（広島大学 2009. 10. 4）でおこなった口頭発表を加筆修正したものである。

注

- 1) 村尾忠廣曲
- 2) 村尾忠廣曲
- 3) 女児1名がどちらも気持ちよく歌えたと回答した
- 4) 簡易伴奏時には「どなり声」で歌っていた

引用文献

- 1) 羽根田真弓「幼児の集団歌唱にみられる「どなり声」の実態（2）ーピアノ伴奏との関連ー」、『鳥取短期大学研究紀要』第59号（2009）、pp.13-18.
- 2) 三村真弓他「幼・小連携の音楽カリキュラム開発の基礎的研究（2）ー斉唱時における子どもの歌唱実態に着目してー」、『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第37号（2009）、pp.145-150.
- 3) Guilbault, D. M. "The effect of harmonic accompaniment on the tonal achievement and tonal improvisations of children in kindergarten and first grade", *Journal of Research in Music Education*, 52 (2004), pp.64-76
- 4) Atterbury, B. W. & Silcox, L. "The effect

of piano accompaniment on kindergartners' developmental singing ability", *Journal of Research in Music Education*, 41 (1993) ,pp.40-47.

- 5) 紙屋信義, 後藤みゆき「ピアノによる子どものうた伴奏の効果ーアレンジによる伴奏法を考えるー」, 『東京未来大学研究紀要』第 1 号 (2008),

pp.67-75.

- 6) 村尾忠廣「和声的でない唱歌に如何に伴奏和声を付すかー「新訂尋常小学唱歌」における作曲家の読みとその修正・改作事例, 「かたつむり」「うさぎかくれんぼ」「富士山」・・・ー」, 『音楽教育学』第 39 巻第 1 号 (2009), pp.84-85.